

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

#### ①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

##### 《医療系》

##### ●沖縄県立看護大学保健看護学研究科保健看護学専攻

##### 「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

国外からの招聘講師や海外実習・研修の調整、さらに資料の翻訳や実習計画書の英語での指導など、バイリンガルの限られた教員体制で行うことはかなりの教員の負担があった。さらに学生自身の英語力の短期的な向上はあまり期待できないので、海外実習時の英語でのコミュニケーションや国際学会時での参加準備などを含め、長期的な視点での英語の能力向上を目指した教育体制の構築が必要である。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

これまで海外からの招聘講師による講演会の開催は実施してきたが規模が小さく、単発であったため随時の対応ですませていた。しかし、今回のプログラムでは未知の領域である島嶼看護に関する海外の専門家による新たな科目「国際島嶼看護論」やアジア太平洋地域での島嶼看護の実習が義務づけられていたため、その開拓にかなりの努力を要した。一部の教員でしか役割の遂行ができなかったため、負担が集中したことも原因になっている。学生自身も英語に堪能な学生ではなかったため、実習なども2年間にわたり同じ教員が通訳者として引率するなどの必要性が生じた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

未知の領域である島嶼看護に関する海外の専門家の抽出や招聘に関しては、リモート看護教育に優れている豪州やカナダの著名な学会や太平洋島嶼看護リーダー会議に教員自身が参加し、直接その場で交渉して、招聘講師の依頼や実習の可能性などを交渉した。こちらの教育プログラムの趣旨を説明することで、多大なる賛同を得ることができたのは非常に幸運であった。人的資源や人的交流が皆無のなかでの展開ではあったが、多くの方々の支援を得て、本大学に著名な専門家の招聘や海外実習が可能になった。今後は、国内のみでなく、海外での研修や研究の機会を作ることで、人的ネットワークが構築されるので、短期間ではあった

が本事業で構築した人的関係性を継続しながら国際交流を進めていくことが課題である。